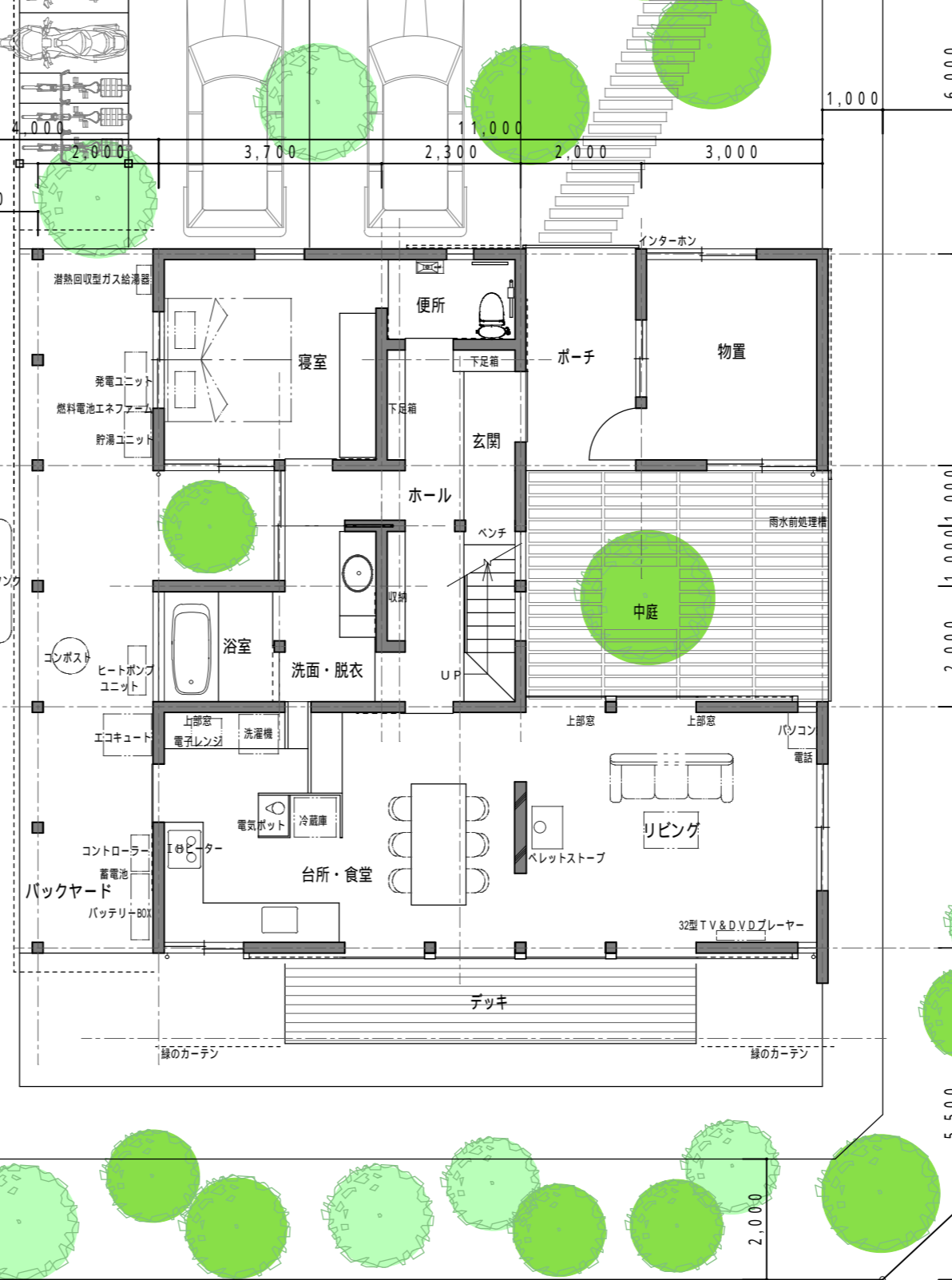


2階平面図 1/100



隣地境界線 27,000



1階平面図 1/100

体験型エコハウス 『きづきの森』

「木(き)」の家に暮らすと心が落ち着きます。朝は「おはよう」と声を掛けながら、太陽の光が優しく差し込む森の小道のような階段や廊下を抜けて、開放的な食卓に向かいます。冬は空気式ソーラー床暖房でほんのり温められた無垢の杉板の床を裸足で歩きます。太陽で暖められた「気(き)」空気の流れに気づき自然の恵みに感謝します。端境期や夏は、熱で夜間冷却されたコンクリートからのほのかな冷気による足裏から感じる温度差が心地良く、パッシブな「気(き)」空気の流れに自然と共に生きていることを実感します。空気を感じ、つくづく、「生きている」のではなく、「生かされている」ことに感謝します。

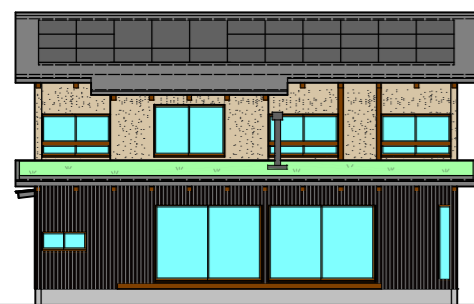
文明機器に頼り切った暮らしは、自然に感謝するところを無くしてしまいました。自然を見つめて、自然を利用して、工夫して暮らすという「きづき」のある暮らし、「感謝」のある暮らしがそこにはあります。自然に同化し、太陽熱を利用する、環境にやさしいパッシブ的な「機(き)」機械を備えた家という「器(き)」うつわは、環境にも技術にも「来(き)」未来に「希(き)」希望や「期(き)」期待を与えます。

パーマカルチャーという環境デザイン思想は、自然生態系のシステムを生かした農の魅力を楽しむの中に取り入れることにより、持続的で自立性の高い生活空間を創造しようとする考えです。

家の回りに畑を作り、農作業を通して生きた自然を体験しながら暮らすことがエコライフの基本となります。壁面緑化や屋上緑化も取り入れて環境共生を実践しガーデニングや野菜づくりなどを楽しまます。食べられる植物を使えば収穫の楽しみも味わうことができます。

人が「帰(き)」帰り、人が「寄(き)」寄る。先祖に「祈(き)」感謝し人が集まる「基(き)」基となるきづきの森の家。

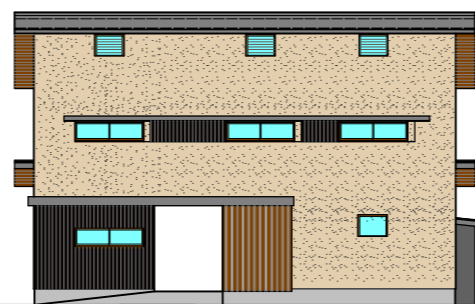
エコハウスのあり方を普及・啓発していくためには、市民がモデル住宅に実際に宿泊できる体験型モデルハウスとします。また、エコ的な生活をする上で必要な暮らし方セミナーやさまざまな体験学習ができるように企画運営し、実際に市民の皆さんが住まい手となって維持管理していくことが必要になります。地元産業界による異業種交流をこの場で行い、意見交換しながら、成長する持続可能なエコハウスに自動車や楽器、農業などの知恵を生かすことで浜松版エコハウスが完成します。



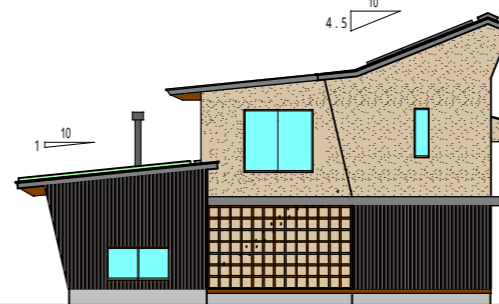
南立面図



西立面図



北立面図



東立面図

色	部位	仕上
■	屋根	ア0.4ガルバリウム鋼板立ハゼ葺き
■	外壁	焼杉板張り
■	外壁	三方原土壁左官仕上